令和５年度岡山県食の安全・食育推進協議会議事録（概要）

令和５年１０月６日

発言者	発　言　内　容
議事（１）	次期「岡山県食の安全・食育推進計画」の策定について
座長	それでは議事に入らせていただく。今年度は、平成30年度から令和５年度までを計画期間とする現「岡山県食の安全・食育推進計画」の最終年度となっており、現在、次期「岡山県食の安全・食育推進計画」の策定作業を行っているところである。この計画素案について、まずは食の安全について生活衛生課から説明をお願いする。
生活衛生課	次期「岡山県食の安全・食育推進計画」の策定について（食の安全部門）説明。
委員	素案46ページのゲノム編集技術応用食品について、既に流通しているゲノム編集技術応用食品は届出するだけで流通可能になったのか、それとも安全性審査を経て流通可能となったのか。 ゲノム編集技術応用食品の人への健康影響についてはまだ分かっていないことが多く、安全性に不安を持っている人も多い。現在流通しているゲノム編集技術応用食品について県民に対する情報提供をお願いしたい。 また、安全性審査を行った食品の審査経過についても県民に対して情報提供をお願いしたい。
生活衛生課	内容によって分けられており、届出で済む食品もあれば、安全性審査を経て流通する食品もある。自然交配に近いものについては届出になる。同じ植物でも特異的な遺伝子についてゲノム編集を行う食品については安全性審査が義務付けられている。 現在国内で承認されているゲノム編集技術応用食品はGABAの含有量を高めたトマト、可食部を増大させた真鯛、高成長のトラフグの３件である。（訂正：でんぷんのアミロペクチン含有量を増加させたトウモロコシも承認されており、現在４件が承認されている。）
委員	素案58ページの「体験を取り入れた衛生学習」の中で、手洗いチェッカーを取り入れた講習会があると記載されているが、具体的にどのような講習会なのか。出前で実施しているか、県が実施した講習会に参加する形になるのか。
生活衛生課	衛生講習会という形で、依頼があって、保健所の職員が出張している。もしくは、栄養教室など市長村の生涯学習の中で、衛生教育という枠で講師として派遣されることもある。

	手洗いチェッカーは、手洗いを実際に体験してもらい、自身の手洗いがきちんとできているかどうか確認するために、蛍光物質の含まれたハンドクリームを使用して手洗いしてもらい、ブラックライトで汚れがあるか体験的にわかるもの。 手洗いチェッカーは持ち運びもできるので、貸し出しも行っている。 体験型の衛生学習のほかに、中心温度計を用いて実際の肉の中心温度を測ってもらったり、ATP 測定器を用いて洗った皿の汚れの度合いを確認したりすることで体験学習をしていただく。
委員	食品衛生協会では、保育園や幼稚園に出向いて劇や紙芝居で手洗いの指導をしている。また、スーパーの玄関で一般市民を対象に手洗いチェッカーを用いて手洗いがしっかりできているか確認してもらうなどの活動をしている。
委員	前の質問に関連して、知っている人は良く知っていて、知らない人は全く知らないというところが問題ではないかと感じている。地域のリーダーや学校教育の現場等、情報を伝える立場の人に対してどのような研修がなされているのか。また、様々な取り組みが紹介されたが、情報はどこで提供されているのか教えていただきたい。
生活衛生課	地域のリーダーに直接衛生教育は行っていない。 リスクコミュニケーターを通して視察型の工場や生産者に見学へ行ったりしている。 リスクコミュニケーターの主催するリスクコミュニケーション活動に参加してもらい、参加した方が地域に情報を伝えるという流れだが、コロナの関係もあって視察型の活動があまりできていない状況である。 研修会はオープンになっていないが、もしあればホームページで案内し、保健所にチラシを配るという形になると思う。リスクコミュニケーションの登録団体を通じて案内することがあるが、積極的に募集して衛生教育を行っておらず、基本的には依頼があって、実施している。
委員	手洗い等については、それぞれの学校で、手洗いの歌を流したり、手洗いの CM を子どもたちで考えて流したりしている。そのような新たな取り組みを紹介していただけると小学校としても取組みの輪が広がって良いと思う。
座長	衛生に関しては、この場にいる方々は衛生に対して意識が高く、関係団体で様々な取り組みをしているところであるが、県でやっていることをどのように情報共有していくかが大事と思うので、それぞれの団体で情報を伝えていただけたら思

	う。それでは、２番目の食育の計画素案に移らせていただく。 健康推進課の方からお願いする。
健康推進課	次期「岡山県食の安全・食育推進計画」の策定について（食育の推進部門）説明
委員	伝統食の食文化を継承することは良いことだが、学校給食で特定の地域食を提供した場合に、残量が増えてしまうものがある。 食品ロス削減に関することも考えていく必要があると思うが、県としてはどのように考えているか。
健康推進課	残菜が増える背景には、地域の伝統食を今までに食べた経験がないことや食べ慣れていないといったことがあると思う。
保健体育課	詳細は把握していないが、矢部委員が言われたような声は現場から聞いたことがある。
委員	提供する伝統食の量や献立の組み合わせ等の見直しや工夫が必要である。
委員	コロナ禍で貧困が進んでいることから、現計画と比べて食育部分で子ども食堂や子どもの居場所づくりの役割が大きくなっているように感じているが、県の見解を伺いたい。
健康推進課	食育は家庭だけでなく、広く地域全体で進めて行くことが大切であると感じており、次期計画にその旨を記載しているところである。
座長	関連していることで、岡山では、フードバンクの取組をしているところが多くある。フードバンクから子ども食堂や貧困の方々に食材を提供している一方で、生産者の方で食材が余っていることがあり、本来は関連する団体が一堂に会してディスカッションする機会が必要である。 行政では、複数の部署に跨がる話かもしれないが、関連団体のつながりをつくっていただけたらと思う。
委員	朝食の摂取率が低下している原因を調査し、施策を考えてもらいたい。
健康推進課	朝食を食べない理由も既に調査している。詳細な結果資料を本日持ち合わせていないが、朝食が用意されていないことや時間がないことが結果として挙がっていた。時間がない背景には、就寝時間等、様々な理由があることから、今後結果を示していきたいと思う。
委員	具体的なデータはないが、家庭での生活リズムの乱れやネグレクトの増加等が原因で、朝食を摂りたくても摂れない子どもたちが増加しているのではないかと予想はできる。
委員	高齢者の健康管理は病院等で実施できているが、若者世代

	や子どもたちの健康管理に目が届いてないように感じている。県民を巻き込んだ県民運動を県として取り組んでもらいたい。
座長	大学生の中には、朝食を食べないことが当たり前になっている者もいる。小さい頃から朝食を食べることが当たり前という意識が持てるように発信していくことが大切だと思う。
委員	岡山県栄養改善協議会では、毎年、知事をお迎えして「朝食毎日きちんと食べよう大作戦」という県内各地の小学生を対象に朝食の大切さを伝える活動をしている。 各地域においても、それぞれの地域に出向いて活動を行っているところである。 他団体とも連携をして普及啓発に努めていきたい。
委員	学校への食育活動等、実施している。 また、複数の関係団体と連携をして「岡山市場ベジフル会」という名称で活動しているところである。
委員	野菜に限らず、地域の特産品を学校に提供して、学校での食育を実施している。「野菜の日」には、各地区で取組を実施しているところである。
座長	各団体が Web など様々な方法で広報をしているため、情報が溢れているが、県としても広報に力を入れていただき、生産や流通関係の方を含め、全ての関係者が県の政策に沿った取組ができればと思う。県として、ぜひ今後生かせるところは生かしていただきたい。
委員	日本の食糧自給率はきわめて低く、カロリーベースで 37%であり、種（たね）や肥料の海外依存度を考慮すると実際には 10%に届かないとされている。 食料の確保は食の安全・安心の基盤であり、必要な食糧の確保ができないところで食の安全・安心を議論しても無意味である。「食料自給率」や「食料安全保障」について、現状・課題の部分に追加記述するとともに、食の安全・安心の確保施策の一つとして「食料自給率の向上」に関する事業を取り上げていただきたい。ちなみに平成 25 年度の本計画には「食料自給率の向上」に関する事業が記載されている。 また、農林水産省には、大臣官房政策課食料安全保障室が設置されており、「食料自給率の向上」や「食料安全保障」をわが国の最重要課題の一つとして取り組んでいることをつけ加えたい。
委員	現在、「食料・農業・農村基本法」の見直しを行っており、食料安全保障の内容も含まれている。今後、情報発信できるの

	ではと思っている。
座長	県民にとって食の安全保障というのは、興味・関心のある話題であるため、県の独自施策や国の政策を県民に伝えるということは大切であると感じた。
委員	賃金が上がらない中でライフスタイルとしては、夫婦共働きが増加している。 また、帰宅後も時間がなく、料理にかける時間も短くなっていることから、加工食品やレトルト食品の活用が増えており、食事の時間自体が短くなってきている。そうした現状を把握した上で取組を実施するという視点も必要なのではないか。 また、数値目標の達成が難しい背景に何があるかというのも、計画入れていただければと思う。
委員	評価の部分を見ると、コロナ禍で自宅にいる時間が長かったにも関わらず、共食に関する目標等が悪化している。 以前、小児科の先生からコロナ禍で子どもの不登校や引きこもりが増加したと聞いたことがある。歯科の関係についてもヤングケアラーや貧困家庭では、口腔機能の悪化が目立つ。こうした人たちに対して支援をしていかなければならないのではないか。
委員	食をめぐる現状に「輸入への依存の増加」との記載があるが、「国産回帰」等、ポジティブな表現にしていただきたい。